

平成30年度「地域発元気づくり支援金」事業実施結果（北信地域）

| 整理番号 | 主事業区分 | タイプの別 | 申請者 | 事業名 | 事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業) | 総事業費 (円) | うち 支援金額 (円) | 講評 |
|------|-------------------|---------|-------------------|----------------------------|---|-------------|-------------------|---|
| 1 | その他(産業の振興及び雇用の拡大) | ソフト・ハード | 株式会社アルビスファーム信州なかの | 農福連携による就労継続支援A型事業 | 中野市において、障がい者就労継続支援A型事業所が農福連携事業を行い、地域の農業従事者と連携することにより、遊休荒廃地を活用し需要の高い農産物を栽培、販売する。 ①農業サポーター委託、教育研修費②乗用型移植機、播種機、作業用トラクター、玉ねぎ・じゃがいも収穫機等の農業用機械購入 | 16,313,546 | 6,000,000 | ・創業2年目を迎え、農地の拡大や生産量の向上のため、作業環境の整備を行い、引き続き農業サポーター等から技術指導を受け、障がい者の就労につなげている。 ・雇用する障がい者も1名増となり、今後も障がい者が自信を持って農作業が行える環境を整え、所得向上等に努めていきたい。 |
| 2 | 保健、医療、福祉の充実 | ソフト・ハード | 信州Gプロジェクト | 子どもの居場所づくり事業 | 子どもの居場所・出番を提供するため、子どもが楽しめるフェスを開催し、信州プロレス等の企画のほか、タイガーマスク化計画の発信や一人親相談ブースの設置、こども食堂を実施している団体等と連携してフードドライブを実施した。 ①フェスHP作成、信州プロレス出演料、チラシ等広告宣伝費、テント購入等その他フェス開催費用、②移動ビザ寮購入 | 1,726,310 | 1,268,000 | ・フェスでは、昔ながらの遊びなどが体験できる「こども縁日」などのほか、地域のこども食堂と連携しフードドライブを行い、子どもカフェやひとり親のサポートを発信し支援につなげている。一過性のイベントに終わらないよう、だがしやGでの居場所づくりの活動と、さらに効果的な連携を行っていただきたい。 ・フェスの開催を継続するためにも、経費削減や自主財源の確保などの検討が求められる。 |
| 3 | その他(産業の振興及び雇用の拡大) | ソフト | 信州中野おごっそフェア実行委員会 | 信州中野おごっそフェア | 中野市防災広場において、中野市を中心とした信越自然郷の農産物の魅力を発信するため出店者を募り販売。H30は「信州中野産」にこだわり、出店者も中野産に関連する出品を検討する。また、SNSの活用、CM動画の一般公募、実行委員会による市外での事前告知等で、効果的な広報を行い、「信州中野産」を発信するイベントを行った。 ①会場設営、広報、交通警備・シャトルバス、イベント・企画等 | 20,439,747 | 3,040,000 | ・信州中野産にこだわることで、地域の農産物の魅力を再認識し、新メニューの開発や既存メニューのブラッシュアップにつながった。 ・他のイベント(SEA TO SUMMIT)との連携や、SNS等での広報の結果、各々の事業の効果的な誘客につながった。 ・継続して実施するためにもイベントに係る経費を自前で調達できる仕組みを構築することが求められる。 |
| 4 | 地域協働の推進 | ハード | 中野市(農政課) | 手づくり農村支援事業 | 農村地域における高齢化や後継者不足による農作業等の負担軽減と効率化を図るため、地域住民が協働して行う農道・水路の補修・整備の直接施工や維持管理活動に必要な材料支給・重機の提供等の支援を行う。 ②農道舗装9地区、水路改修10地区 | 10,900,095 | 5,450,000 | ・業者施工よりも少ない経費で整備ができ、農作業の作業負担の軽減につながった。また、住民が自ら作業したことにより、自立意識の触発と愛着を持った維持管理が可能となった。 |
| 5 | 特色ある観光地づくり | ソフト | 一般社団法人信州いいやま観光局 | 信越自然郷におけるガストロノミー・ツーリズム推進事業 | 地域の食文化を生かした「ガストロノミー・ツーリズム」を推進することで、食を求めて来訪してもらえる地域として、競争力を持った地域を確立するための事業を実施した。 ①料理教室の開催(講師謝礼・チラシ等)、食材収穫体験ツアー宣伝費、青空レストラン(調理人謝金・チラシ等)、スローフード講演会、先進地視察 | 1,965,167 | 1,572,000 | ・信越自然郷の重要な資源である「食文化」に重点を置き、高校生も参加して地域食材の可能性を探る料理教室や、ガストロノミーの専門家を招いての講演会などを実施し、地域住民のガストロノミーに対する関心と理解を深めた。 ・先進地の取組事例などを参考に、この地域の食文化を生かしたガストロノミー・ツーリズムの推進を期待したい。 ・料理教室などの成果をどう現地サービスに活かしていくか、検討していただきたい。 |

| 整理番号 | 主事業区分 | タイプの別 | 申請者 | 事業名 | 事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業) | 総事業費 (円) | うち 支援金額 (円) | 講評 |
|------|------------|---------|------------------------------|--------------------------------------|--|-------------|-------------------|--|
| 6 | 特色ある観光地づくり | ソフト・ハード | 一般社団法人信州いいやま観光局 | 信越自然郷におけるウィンターアクティビティツーリズム促進事業 | 複数の観光地を周遊したい観光客のニーズに応えるため、エリア内のスキー場等の各事業者との連携を強化し、エリア全体への来訪者を促すための広域的・統一的な情報発信を行い、併せてウィンターアクティビティを経験したことがないファミリー層をターゲットとしたキャンペーンを実施した。 ①スキー場紹介冊子制作、リアルタイム情報発信WEBコンテンツ、チラシ広告等、キャンペーン用ガイド謝金、②デジタルサイネージ設置 | 4,673,059 | 3,722,000 | ・信越自然郷エリア内で広域で統一した情報発信や提供を行うためのWEBサイト(日・英)を構築し、観光客のニーズに応える体制を整え、観光誘客促進のための情報発信を行い誘客につなげた。 ・雪によるアクティビティ体験プランは、悪天候などの影響から6回のうち4回が不催行となったため、実施方法や集客方法の検討が求められる。 |
| 7 | 環境保全、景観形成 | ソフト・ハード | 特定非営利活動法人フォレスト工房もくろ | 里山公園化を目指した無理のない持続可能な里山保全の仕組みと交流の場づくり | 里山の保全のため、小規模田んぼの貸し出し、里山交流イベントワークショップ等の体験会の実施、間伐材の利用促進・6次産業化(ログファイヤー等製作販売)のための拠点整備を行った。 ①田んぼ管理用刈払い機等、交流・ワークショップ、間伐材利用促進用チェーンソー等、②ログファイヤー乾燥用建屋建築 | 4,609,451 | 2,974,000 | ・里山暮らし研修や棚田の保全イベントなどを開催し、里山を活用した地域内外の者との交流を行い、里山の保全も進めた。 ・間伐材でログファイヤーを製作し、そのログファイヤーを地域の祭りに寄付し、間伐材の有効活用と地域づくり活動に貢献した。 |
| 8 | 特色ある観光地づくり | ソフト | 北竜湖観光協会 | 第3回クラフトフェア北竜湖開催事業 | H28年から飯山市北竜湖を会場に実施してきたクラフトフェアを定着させ、北信エリアの観光拠点の1つとして認知度向上を図るため、地元高校生や地域住民から運営に携わるボランティアを募集し、第3回目を開催した。また、通年型の観光イベントに昇華させるために、他の時期に地域で行われているイベントと連携し、H31年度から「信越自然郷アート・クラフトロード」としての開催を目指す。 ①チラシ等作成、ラジオ・SNS等広告宣伝費、イベント実施費用、HP更新、施設使用料・シャトルバス等イベント運営費用 | 2,087,018 | 1,420,000 | ・イベント開催が3年目となり、出店者、来場者ともに順調に増加していることから、地域のイベントとして確実に定着してきている。 ・地元の高校と連携したそば打ちの実演や箸づくりの体験、県外の大学の学生ブースでの作品は、若い世代がこのイベントに関心を持ち参加するきっかけになっている。 ・今後は、他の団体等との連携を行い、イベントの魅力をアップすることにより、北信エリアへのさらなる誘客が期待できる。 |
| 9 | 特色ある観光地づくり | ソフト | 千曲川・高社山SEA TO SUMMIT実行委員会 | 千曲川・高社山SEA TO SUMMIT事業 | カヌー・自転車・登山の3種類のアクティビティをつないで旅を楽しむ「SEA TO SUMMIT」を実施。H30年は木島平村を主催者に加え、運営ノウハウの習得、ガイド等の人材育成を図り、自主開催(グリーン期の旅行商品化)できるよう取組む。 ①運営費、設備費、広報費、講演会、人材育成費、保険料 | 8,466,579 | 2,000,000 | ・信越自然郷の豊かな自然を生かした大会は、この地域がアウトドアアクティビティに適した地域であることを情報発信し、参加者をはじめとする観光客の誘客につながっている。 ・同日開催された「おごっそフェア」会場で開会式と環境フェアを開催し、地域でのおもてなしを連携して行うなど、地域で一体となった取組を行った。 ・今後は、地域独自の開催及び開催経費を自前で調達できるよう運営ノウハウの習得、アウトドアアクティビティによる旅行商品化などを行っていただきたい。 |
| 10 | 教育文化の振興 | ソフト | 市民第九コンサート実行委員会(プレ飯山音楽祭実行委員会) | 市民第九コンサート(プレ飯山音楽祭)事業 | 市民による第九コンサートを2回開催してきたが、当初の目的である「飯山音楽祭」へと発展させるため、H30年は、0歳児から楽しめるコンサートや飲食しながら気軽に音楽を楽しめる「歌声居酒屋」など、様々な音楽企画を開催し、幅広い世代で多くの音楽ジャンルが集う「プレ飯山音楽祭」として実施する。 ①オーケストラ委託費、合唱指導者等謝金・旅費、会場使用料、広告宣伝費 | 4,581,568 | 1,200,000 | ・平成30年度は、「プレ飯山音楽祭」として、市民協働による第九コンサートに加え、プロによる質の高い音楽の提供、アウトリーチコンサートを実施し、市民交流や文化芸術への関心を深めることができた。 ・公募した小学生が少年少女合唱団として活動を始めるなど、市民が文化芸術に親しみ学ぶ意欲を喚起した。 ・今後も幅広い音楽に親しみ交流を深め、文化芸術の振興を進めるため、プレ音楽祭での取組を発展させ飯山音楽祭として継続し、地域住民の活動の広がり等が期待できる。 |

| 整理番号 | 主事業区分 | タイプの別 | 申請者 | 事業名 | 事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業) | 総事業費 (円) | うち 支援金額 (円) | 講評 |
|------|-------------------|---------|----------------------|-------------------------|--|-------------|-------------------|---|
| 11 | その他(産業の振興及び雇用の拡大) | ソフト・ハード | 株式会社フジすまいるファーム飯山 | 障がい者総合支援法に基づく就労継続支援A型事業 | 障がい者就労継続支援A型事業所を立上げて3年目。引き続き遊休農地を開墾し伝統野菜の坂井芋等を栽培、農産物の加工・販売を行うことにより、農業の振興を図るとともに障がい者の自立を支援する。 ①雪室研究用資材購入、②耕耘機、管理機、噴霧器等農業機械購入、開墾費用 | 1,819,157 | 1,363,000 | ・今年度は、農作業のための農機具を整備し、耕作面積の拡大と作業の効率化を進め、障がい者の特性に応じた農作業の分担なども行い、障がい者の所得向上、自立促進につながった。 ・地域のイベントへの参加や大学生等を受け入れるモニターツアーの実施などで、地域住民等と幅広い交流が図られた。 ・雇用する障がい者が、農業の技術指導や作業の助言などを受けられるよう、関係機関等との体制をさらに強化し事業を進めていただきたい。 |
| 12 | 農業の振興と農山村づくり | ソフト・ハード | 飯山そば振興研究会 | 飯山のそばによる元気な地域づくり事業 | 飯山市内の小規模なそば生産者団体が、収穫時期を逃さずに収穫量を増やしていくため、共同利用できる収穫機や糶摺機、乾燥機等の機械を購入した。また、収益を増やすため、加工、連作障害対策や二期作の試験栽培等を行い、そばの振興を図った。 ①連作障害対策・二期作試験栽培②収穫機、乾燥機、糶摺り精米機 | 4,347,641 | 3,270,000 | ・飯山市のそばを提供、販売する取組や6次化を進めるため、生産体制を整え試験栽培を行い、単位あたり収量を増やすことができた。また、雪室も活用しそばの付加価値を上げる実験にも取り組み、そば打ち体験会で高評価を得た。 ・今後は、生産体制の強化と販売体制を整えるとともに、観光分野とも連携することにより、飯山そばの振興がさらに進むよう取り組んでいただきたい。 |
| 13 | その他(産業の振興及び雇用の拡大) | ソフト・ハード | かまくら祭り実行委員会 | かまくらの里どぶろく事業 | 飯山市外様地区のかまくらレストランのさらなる魅力向上のため、H29年12月に「どぶろく特区」の認可を受け、かまくらでどぶろくを提供する。そのために必要となるどぶろく製造所の整備と製造機器の購入を行った。 ①ビン等どぶろく製造機器、②どぶろく製造所工一式 | 2,492,831 | 1,341,000 | ・外国人からも人気となっているかまくらレストランの魅力をさらに高めようと、地域の特産物である米を活用しどぶろくを作り提供するための施設設備がととのい、新たな地域資源となった。 ・今後、このどぶろくの活用により、さらなる誘客に期待したい。 |
| 14 | 地域協働の推進 | ハード | 飯山市 | 協働のむらづくり事業 | 住民と市が協働して農林業用施設を整備することにより、事業費を圧縮、施設の維持管理作業を軽減し、農林業生産の効率を高める。また、協働作業を通じて住民同士の交流、施設管理意識の向上を図る。 農林道舗装12箇所、水路改修14箇所、林道舗装2箇所 ②原材料購入費 | 5,537,172 | 3,287,000 | ・地元の住民が自ら考え実施する、主体的な取組となっている。 ・業者施工に比べて60%ほどの経費で施工できたなど、経費節減にも寄与している。 |
| 15 | 特色ある観光地づくり | ソフト | スノーリゾート受入観光地協議会 | スノーリゾート受入観光地協議会誘客宣伝事業 | 旅行代理店の販売担当者等を招き、実際に二次交通を利用しながら複数のリゾートエリアを体験してもらうことで、具体的な説明ができる販売担当になってもらう。PR不足も課題であるため、若者を中心とした音楽ストリーミングサービスで、音声で信越・白馬エリアへのアクセスや魅力をPRと大阪駅での誘客宣伝キャンペーンを実施した。 ①販売担当者視察研修、Webプロモーション | 2,385,906 | 1,702,000 | ・旅行会社等の商品造成担当者に、夏と冬それぞれの時期に、現地研修会で実際に施設の視察、二次交通の状況を確認し認知してもらったことは、旅行商品の販売促進に効果的であった。 ・webプロモーション、大阪駅での宣伝キャンペーンなどの効果もあり、協議会エリアの観光客数は年々増加している。 |
| 16 | 環境保全、景観形成 | ソフト・ハード | 志賀高原ユネスコエコパーク活用山内協議会 | 志賀高原ユネスコエコパーク「絆」創造事業 | 「自然と人間社会の共生」というユネスコエコパーク指定の理念に基づき、産業振興と環境教育推進のため、ESD(持続可能な開発のための教育)活動を通じて、未来の担い手を育成するほか、その魅力を発信し、観光等地域産業の発展を目指す。 ①DVD、VR映像制作、森林セラピー開催費等、②ESD活動環境整備費(植生保護・コンバネ敷設) | 2,447,875 | 1,888,000 | ・作成したDVDを活用して、ユネスコエコパークの指定及びその取組を町内外に折に触れPRし、地域資源の発信を行う体制がととのった。 ・ユネスコエコパークでの森林セラピーは、観光資源としての活用が期待でき、ESD環境活動により、小・中・高校生が地域資源の活用や環境について学ぶ場となっている。 |

| 整理番号 | 主事業区分 | タイプの別 | 申請者 | 事業名 | 事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業) | 総事業費 (円) | うち 支援金額 (円) | 講評 |
|------|-------------------|---------|--------------------------|--|---|-------------|-------------------|---|
| 17 | 環境保全、景観形成 | ソフト | 山ノ内町雪室利活用協議会 | 雪室スノーパル利活用促進事業 | 山ノ内町須賀川地区に設置した雪室「スノーパル」の認知度を高め、利活用を推進するため、雪室コンビニの実施やブランド企業(松屋銀座等)と連携してPRを実施し雪室商品のブランド化を図った。 ①雪室コンビニ開催費、松屋銀座コラボ出店等、雪室貯蔵品のパッケージ等ブランド化 | 2,997,776 | 2,380,000 | ・雪室コンビニの実施は、町内外に雪室と雪室商品を広くPRする良い機会となり、1,000人を超える集客があったことは、効果的であったと評価できる。 ・首都圏で雪室商品を販売した経験や結果を、今後の雪室商品のブランド化に活かし、雪室の利活用に役立てていただきたい。 |
| 18 | その他(産業の振興及び雇用の拡大) | ソフト | 合同会社 MOUNTAIN DISCOVERY | 第1回志賀高原星のリノベソン | 減少傾向にある観光客などの地域課題を解決するため、首都圏の学生、企業を誘致してリノベソン(空き家の改築のコンペ合宿)、コンテストを実施し、優秀と判断されたアイデアには事業資金を付け、学生が実際に改築まで行い、山ノ内町への関わりを作り、再訪を促す。 ①学生交通費30人分、学生宿泊費4泊分、審査員謝礼1人分、ワークショップ等原材料費、映像制作、誘致等経費 | 3,116,557 | 1,573,000 | ・地域の課題を解決するため空き家を活用し、学生の視点からの改築をコンペで実施、実際に施工までを学生が自ら行うことで、山ノ内町のPRや再訪につながった。 ・当初の計画を途中で大幅に変更するに至った点は、計画段階で十分に調査や検討を行うことが必要である。また、改築後の建物は、改修が目的とならないよう事業目的とした地域課題を解決するために活用していただきたい。 |
| 19 | 特色ある観光地づくり | ソフト | 志賀高原観光協会 | 大学・各種学校との志賀高原連携事業「学生による志賀高原観光振興プロジェクト」 | 若者の志賀高原の認知度を上げ、地域における将来の観光人材を育成するため、志賀高原の遊休店舗を活用したカフェ等の店舗運営の場を大学等に提供し、若者による活気ある志賀高原を演出・発信することで、観光誘客につなげる。 ①学生滞在・交通費、講師謝礼・交通費、先生滞在費、学生町内研修用バス、店舗装飾、チラシ等広報費、HP制作、手配手数料等 | 3,234,000 | 1,581,000 | ・遊休施設を活用して、学生が主体的に店舗運営を行い、将来の観光人材の確保に役立つとともに、SNSで志賀高原の情報を発信したことは、観光地を活性化させ誘客につながった。 |
| 20 | 地域協働の推進 | ハード | 山ノ内町 | 地域協働で農業に活力を与えるための施設整備 | 高齢化や後継者不足により、将来の農業経営は困難な状況にある中、地域住民が協働で農道等の整備を行うことにより、地域のつながりを深め、農業に活力を与え農村全体が元気になることを目指す。 ②農道舗装4地区 原材料費、重機借上料 | 3,102,388 | 1,551,000 | ・荒天時でも安心して農耕車輛を運転できるなど、農作業の効率化と作業の安全性が図られた。 ・行政頼みではなく、地域住民が中心となり事業を実施したことで、農業者の生産意欲の向上につながった。 |
| 21 | 安全・安心な地域づくり | ソフト | 木島平村学校運営協議会 | 村民総ぐるみの見守り隊企画 | 安全で安心して暮らせる地域社会の実現のため、村民総ぐるみで日常的な子どもの見守り活動を実施し、地域の大人からも積極的にあいさつや声かけを行い交流して、地域愛の醸成を図った。また、活動するための統一ジャケットを、中学生がデザインをして制作し、子どもの出番を創った。 ①統一ジャケット制作 | 425,520 | 319,000 | ・学校運営協議会に連絡会が位置づけられ、組織立てて継続的な活動が行われる体制が作られた。 ・見守り隊の活動で着用するジャケットのデザインを中学生が行ったことで、子どもの出番を創出し郷土愛の造成が図られた。 ・今後は、さらに活動に賛同する者を集め、地域で子どもを育てる体制が強化されることを期待したい。 |
| 22 | 地域協働の推進 | ソフト・ハード | 特定非営利活動法人地域創生研究所あつまれむらびと | 空き店舗を利用した「むらびとサロン」リノベーションプロジェクトⅡ | 住民が地域課題について話し合う場づくりのため、空き店舗を住民や大学生とともにリノベーション工事し、ワークショップやトークイベントを行うことで、多様な人たちの居場所や出番の創出基地にする。 ①リノベボランティア交通費、ワークショップ広報、講師謝礼等、②リノベーション材料費 | 1,208,545 | 916,000 | ・活動の拠点となる施設(サロン)を、地元住民や県外の大学生等とリノベーションすることで交流が深まり、地域づくりへの関心が高まった。 ・サロンを活用して講演会などを実施し、住民が自ら地域の課題解決に取り組む意欲を喚起した。 |

| 整理番号 | 主事業区分 | タイプの別 | 申請者 | 事業名 | 事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業) | 総事業費 (円) | うち 支援金額 (円) | 講評 |
|------|-------------------|-------|-----------------------|------------------------------|---|-------------|-------------------|---|
| 23 | 特色ある観光地づくり | ソフト | (一社)木島平村観光振興局 | 木島平村の観光客“30万人に増”作戦 | 「木島平村観光基本計画」で目標とした、平成31年までに観光客入込数を30万人にまで戻すために、既存の旅行商品や地域資源・郷土料理の開発、魅力アップを図った。また、近隣市町村と連携した広域観光旅行商品の開発やインバウンド向け宿泊体験などを実施した。 ①旅行商品研修会講師謝礼等、旅行商品パンフ作成、郷土料理開発等 | 548,266 | 438,000 | ・旅行商品の開発でのテスト販売は、最小催行人数に達しなかったため中止となったが、旅行商品の造成やPR、募集等のノウハウが習得できた。 ・今後は、このノウハウを生かし、効果的な事業を実施し観光客の増加に取り組んでいただきたい。 |
| 24 | 農業の振興と農山村づくり | ソフト | 木島平村 | 木島平米「ゴールドプレミアムライスAAA」PR・推進事業 | H29年11月に、米・食味分析鑑定コンクール国際大会にて、全国で4番目(長野県では初)となる「ゴールドプレミアムライスAAA」に認定されたことから、より多くの消費者等に木島平米のおいしさを周知し、「木島平村＝木島平米＝ブランド米産地」とのイメージを構築し、さらなるブランド化を目指す。 ①PR用チラシ・ノベルティ等、ラジオ出演経費、商談会負担金等、旅費、高速代等 | 2,236,522 | 1,060,000 | ・H21年から参加している「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で10年連続で金賞を受賞し、さらなるブランド化が図られ、生産者の生産意欲の向上につながった。 ・今後は、賞の受賞を目指すのみでなく、賞を付加価値としたPR、販路拡大に取り組んでいただきたい。 |
| 25 | 特色ある観光地づくり | ソフト | Nozawa Green Fes実行委員会 | Nozawa Green Fes 2018開催 | グリーンシーズンにおける誘客を促進するため、村内のクラフトビール醸造会社が主体となり、ビールと食と自然をテーマにしたGreen Fesを開催し、大自然の中、大人も子どもも楽しめるイベントとすることで、宿泊客の増加など村内地域経済への貢献を目指す。 ①オリジナルグラス等、送迎バス、ビールサーバー、オリジナルグラス、チラシ等広告、海外ブルワリー謝礼等、HP、冷蔵庫等レンタル、会場使用料 | 2,573,241 | 1,737,000 | ・ビールを通じたイベントとすることで、スキー客とは異なる客層、グリーン期の誘客につながっている。 ・入場者数及び出店者数は計画時の約半分であったため、自立した事業を継続していくためにも、事業収入の増加のための検討が求められる。 |
| 26 | 地域協働の推進 | ハード | 野沢温泉村 | 手づくり農道舗装等事業 | ・農林業従事者の高齢化による農地・林地の荒廃を防ぐため、地元住民が協力して農道舗装等を行い、農作業の効率化と生産意欲の向上を図り、地域ぐるみでの農山村景観の保全活動を行った。 ②原材料費支給 農林道3か所、水路1か所、林道路盤整備1か所 | 2,471,126 | 1,647,000 | ・農道等の整備により農林作業時の安全な通行確保と利便性が向上し、また、住民が自ら整備することで自立意識の醸成と経費の削減が図られた。 |
| 27 | 教育、文化の振興 | ソフト | 信越秋山郷会 | 秋山郷の暮らしと将来を学ぶ | 秋山郷には貴重な民俗資料が残されているが高齢化が著しく、文化資源をどのように引き継いでいくかが課題となっているため、都会に暮らしながらも秋山郷へ定期的に通ってくれる「関係人口」も視野に入れながら、秋山郷の今後の観光のあり方と振興を検討するためのシンポジウムと秋山郷の自然や暮らしを知り、体験する塾(春・秋)を開催した。 ①講師等謝礼、チラシ等作成、通信運搬費 | 311,411 | 249,000 | ・数年前まで行われていた秋山郷での「常民大学」を復活させ、シンポジウムや常民塾(講義、体験等)を実施し、地域住民や広く募集した参加者に、秋山の歴史や暮らしを学ぶ機会を提供し、関係人口の創出に寄与している。今後も常民塾を継続して開催することで、秋山の魅力、情報発信を行っていただきたい。 |
| 28 | その他(産業の振興及び雇用の拡大) | ソフト | 極野山菜生産販売組合 | 極野里の幸プロジェクト | 極野地区は、林業や山菜、きのこ販売等で栄えていたが、高齢化で山に入らなくなり荒れるようになったため、組合や住民で協議し、H29年に公民館内に惣菜の加工施設を新設し、山菜等の加工品づくりを行っていくことを決めた。山菜に詳しいプロの料理人を講師に招いた料理教室の開催、加工品の開発を行い、里の幸弁当を販売して交流人口の増に向けて取り組んだ。 ①料理教室、加工品開発、弁当販売 | 657,843 | 503,000 | ・豊富にある山の恵みの山菜を活用するため、専門家を招いての料理教室の開催や加工品開発は、山菜の可能性を再認識し、地域住民の世代を超えた交流や、活動意欲が高まるきっかけとなっており評価できる。 ・今後、加工品開発で完成させた「山菜のジェノベーゼソース」を販売していくことにより、地域住民の活動への参加増や、村の食文化、地域の魅力発信が期待される。 |
| 29 | 地域協働の推進 | ハード | 栄村 | 農地等国土保全事業 | ・農林業従事者の高齢化が進み、共同で管理している農道等の維持管理作業の軽減を図るため、集落等の要望により農道及び用排水路等の改修を住民が行う際、村が原材料等を支給した。 ②原材料支給:農道舗装等1箇所、水路等改修6箇所 | 2,920,698 | 1,640,000 | ・農道及び水路等を整備することにより、山間地の水田の持つ多面的機能が維持、発揮され、生産性の向上につながっている。 ・受益者分担金があり、事業規模(必要性、優先度)を住民自らが判断しているため、事業後の利用率や満足度が非常に高い。 |